

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



白登苗圃でアカゲラ発見。カササギほどではないけれど、大同ではときどき見かける。

### Contents

- みみずく基金現状報告 ..... P 3
- 大同の風景に想う ..... P 4
- 水俣の毎木調査に参加して ..... P 5

2008.1

119

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

## 今年も GEN をよろしくお願ひします

新しい年が明けました。2008 年も、緑の地球ネットワークをよろしくお願ひいたします。

最近の中国の変化はめざましいものがあります。以前から、「貧しい農村にもテレビで豊かな北京や上海のようすが報じられて、農民はどんな気持ちなんだろう」という危惧はツアー参加者などからも寄せられていました。「北京や上海は別の国ですから」などと言つていましたが、さすがにその渾<sup>おり</sup>がたまつてきたようで、最近は農村での仕事がやりにくくなつたと大同事務所のスタッフが嘆くこともあります。諸物価が高騰しているため、金銭への要求が大きくなつてくるのは無理もない面もあります。

中国がこれだけの経済発展をつづけ、なおかつ環境・緑化の大規模な施策を講じるなかで、日本の小さな NGO が果たせる独自の貢献を追求しつづけたいと思います。みなさまのご協力をよろしくお願ひいたします。

### ◆会員になってください！

まだ会員になつてない方、ぜひ会員になって GEN の活動をさせてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

### ◆みみずく基金に参加してください！

1 口 1 万円。緑色地球ネットワーク大同事務所と GEN が共同運営するプロジェクト(A. 環境林センター、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森) の運営費用です。

### ◆カササギの森に参加してください！

1ha 分 5 万円を 1 口として寄付を募っています。落葉広葉樹や花木も植えられ、多様な展開をみせる実験林場“カササギの森”、参加するなら、いまのうちです！

### ◆緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんの応援をお願いします。

### ◆ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題と GEN の活動紹介を 30 分にまと

めました。価格は 5,000 円、GEN 会員は 4,000 円（送料 240 円別途）です。教材にも好適。小学校高学年から。

### ◆古切手回収

古切手を集めています。切手の周囲を 5mm ~ 1cm 残して切り取り、お送りください。普通切手、記念切手、外国切手、なんでも OK。未使用も歓迎！

### ◆書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

### ◆商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りください。

### ◆ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

### ◆出版物を購入してください

『ぼくらの村にアンズが実った－中国緑化協力の 10 年』高見邦雄著／日本経済新聞社／本体価格 1,600 円（GEN では 1,600 円 + 送料 290 円で取り扱っています）

す）

『雁棲塞北』（『ぼくらの…』中国語訳）李建華・王黎傑訳／国際文化出版公司／GEN 取り扱い価格 1,000 円（送料 290 円別）

『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』橋本紘二写真集／東方出版／本体価格 6,000 円（GEN では送料込み 6,000 円で取り扱っています）

※ご注文は GEN 事務所まで。

なお、2005 年 6 月から国税庁から認定 NPO 法人の認定を受け、昨年 6 月からは第 2 期目の認定が決まりました。GEN への寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額 - 5,000 円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ・カササギの森協力金・みみずく基金と、会費のうち 1 口を超える部分・賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

## ネットで、お店で～

## 広がるボランティアのかたち

### 参加しやすくなっています！

地球温暖化や環境問題への関心のたかまりとともに、さまざまな形で環境問題への取り組みが広がっています。GEN とは直接関係ありませんが、BIGLOBE がはじめた「BIGLOBE ツールバー for エコ・検索回数 100 万回で、1 本ユーカリの木を植林 (<http://eco.biglobe.ne.jp/kigyou/toolbar01.html>)」という企画なんかは、気軽に参加できそうです。

インターネット上にはオンライン寄付サイトもできていて、GEN もいくつかに参加しています。国際協力 NGO センター (JANIC) の NGO サポート募金 (<http://www.janic.org/modules/smartsession/>) や、ガンバ NPO (<http://gambanpo.net/>)

など。もちろん、GEN へのご寄付は直接いただけるとありがたいのですが、これらのサイトでは、他団体の活動の様子を知ることができ、災害にあたっては緊急支援の情報を得ることができます。ご活用いただければと思います。

また、神戸発で「地球仲間」というシステムが動き出しました。個人・お店・NGO が、「地球仲間」として登録し、寄付をおこなうというものです。個人会員が登録したお店を利用すると、クーポンなどの特典をつかえて、お店が登録 NGO に寄付をします。詳しくは <http://chikyu-nakama.com>、または地球仲間 (tel. 078-262-7786) まで。

# みみずく基金 現状報告

06年11月からはじめた『みみずく基金』、おかげさまでたくさんの協力をいただいています。中には、2度、3度と寄付を送ってくださる方もおられます。ありがとうございます。

08年1月7日までに、91件、194口のご協力をいただきました。そのうち使途が指定されていたものは、環境林センターが15口、靈丘自然植物園が24口、白登苗圃が18口、かけはしの森が35口です。各プロジェクトの様子を、写真でご報告します。



左) 環境林センターの夏と冬。  
上) 靈丘自然植物園。斜面は緑で覆われている。  
中) 白登苗圃で育つマツ苗。  
下) かけはしの森のアンズ。

## GREEN なんでも勉強会『生命と環境、循環と廃棄』 報告と案内

12月11日、弁天町市民学習センターでおこなわれた勉強会『生命と環境、循環と廃棄』には、31名が参加しました。

地球上に生命が誕生したときに、生命を取り巻く環境も生まれ、お互いに働きかけあいながらバランスをとってきたけれど、人間が増えすぎて強大な力でバランスをくずしてしまったこと。資源・エネルギーの循環も、やはり人間がこれまでの蓄積から搾取し、多く廃棄するためにうまくいかなくなっていること。そんなことを考えながら、講演とそのあとの質疑を興味深く聞きました。

今回は内容が少々抽象的でしたが、次回はごみ問題で、身近な話になります。自治体のごみ行政の現場で長く働く講師ならではの話題もあるでしょう。『GREEN なんでも勉強会 生命と環境、循環と廃棄～』

### 第2回 ごみ対策を考える

- 日時：1月29日（火）18時30分～20時30分
- 場所：大阪市立総合生涯学習センター（大阪駅前第2ビル5階）
- 講師：川島和義（GEN副代表・自治体職員（ごみ行政に従事））
- 参加費：700円



## GEN「自然と親しお会」 冬の金剛山散策と自然観察

- 案内：伊藤孝美さん（大阪府立食とみどり技術センター研究員・NPO自然とみどり理事）
- 日時：2008年2月24日（日）10：40～14：30
- 集合：金剛山ロープウェイ山頂駅
- 参加費：700円（保険料含む・交通費は別途）
- 申込：2月21日までにGEN事務所まで。金剛山は四季をつうじて楽しめる山ですが、でも、なんといっても冬が最高。足の便に恵まれ、雪や樹氷を手近に楽しめるからです。今回はこの一帯をフィールドに長く活躍してこられた伊藤孝美さんにご案内をお願いしました。余裕のあるプランで、散策と自然観察を楽しんでいただきます。

### 【持ち物】

防寒の服装・しっかりした靴・手袋・帽子・雨具／弁当・温かい飲み物・アメなど甘いもの・敷物／お持ちの方は軽アイゼン（ない方には藁縄を用意します）

## 助成・ご寄付 ありがとうございます

- （株）ラッシュジャパン・LUSHチャリティバンクから、小学校付属果樹園に100万円の助成が決まりました。
- 富士ゼロックス端数俱楽部と富士ゼロックス（株）から、マッチングギフトによる寄付、計20万円をいただきました。
- MOTTO（株）から、「国際循環システム」取扱実績により、毎月ご寄付をいただいている。07年4月にスタートしました。



# 大同の風景に想う

前中久行 (GEN 顧問・大阪府立大学大学院教授)

私が最初に大同へ行ったのは、1979年です。内蒙自治区の緑化事情の視察のオマケとしての雲崗石窟見学でした。当時はまだ中国旅行が外国人に開かれた直後だったので、私たち旅行団、とくに若い女性の服装は中国の人々の関心的で、街を歩いてみると見物人に幾重にも囲まれて人垣ができ、さながら人寄せパンダ状態でした。最近の中国では、私が中国の人々のファッションに見とれて、お上りさん状態です。ずいぶんと様変わりしたものです。

私はそれまで、乾燥地を訪れたことはありませんので、彼の地の生き物や農業の印象は大変強烈でした。一例をあげるとキャベツ畑。遠くからでもキャベツが植えられていることが分かりました。なぜ?? 農地の上に白いものが漂っているので近づいてみると、それは蝶々の群れが乱舞。その下は虫食いのキャベツ畑でした。注意してみると、農地の周辺には多くの野生植物が生育しており、またネズミ、モグラ、ウサギ、鳥類、カエル、昆虫類など多くの動物、あるいはそれらの生息の痕跡が見つかりました。今風に表現すると生態的な生物多様性はかなりのものでした。

キャベツの隣にはジャガイモやアワ、キビ、ヒマワリ、トウモロコシ、コウリヤンなどが栽培されていました。私が生きた実物のキビを見たのは、その時が初めてでした（当時も今も日本の農学部の学生でキビを見たことがある人はほとんどいないでしょうね。GENの夏

の活動に参加した人ぐらいいか）。ジャガイモの出来は、日本に比べると大変見劣りました。しかし、この地域の人々の食物となっているのは、間違いなく小さなジャガイモやアワ、キビなどで、生活における重要性は日本とは比べものにならないと思いました。農地が人々の生活と密接に結びついていました。すでに

飽食の傾向が現れ、補助金の投入を受けながらも食料自給率が低下していました。当時の日本農業、そこでは多量の化学肥料と農薬が投下され、多くの農業機械が使われていました。多量の資材やエネルギーを必要とする日本の農業に比べると、彼の地の農業は生産力は低いけれども生態的には健全と思えました。見た目の風景は確かに荒涼としています。しかし、それは土地の植物が食料や燃料あるいは家畜の餌として収穫され、持ち出されて人々の生活を支えていることの結果です。いわゆる近代農業は、見かけの収穫量は多いけれども、農業機械の運転燃料あるいは肥料など必要な資材の生産などに使われた投入されたエネルギー量を差し引き、農業によって食料として収穫されたエネルギー量との差で測ると、生産力は大きくはありません（日本

の米作について宇田川氏の研究によれば 1970 年の時点で、玄米としての算出エネルギーは投入エネルギーの 47% でしかありません。何と！ 日本の米作のエネルギー生産力は 1960 年頃を境としてマイナスに転化していたのです !!）。それに比べると地域の人々の食料エネルギーを支えていた当時の内蒙古や山西省の農地の働きの何と健全だったことか!! 人力と畜力それに



放牧されなくなったために回復が始まった靈丘自然植物園の植生。写真の中央右側の以前から残っていたマツの大木とその木陰で休憩している人間の大きさを比べてください。この付近の樹木は将来これぐらいの樹高までは成長可能と思われる。

有機肥料ですから、エネルギーの獲得は間違いなくプラスなのです。

山には大木が無く、背の低い草がまばらに生えている程度でした。よく見ると羊や山羊が山肌によじ登って植物を食べていました。羊たち頑張っているなと思ってみると羊の群れを追っている人がいました。羊毛や羊を売ってお金を手にするために、当然人間も頑張っているのです。中国の内陸部の山に大きな樹木が育たないのは、雨が少なく乾燥のためと思っていましたが、必ずしも乾燥だけではなく、放牧された家畜が食べてしまうことの影響も大きいことを実感しました。目にする風景は確かに荒涼としています。しかし、その風景が出来上がった原因と、はげ山への変化の上に成り立っている人々の生活を思う時、私には農地や山々の存在が非常に大きなものと感じられました。風景もむしろ力強く健全なものと思われるようになりました。この初めての半乾燥地旅行以来、私は地域の植生を、その外観や形、植物の種類の多さだけでなく、地域の人間の生活との関連で評価しています。人間の影響を受けていない自然性の高い植生はもちろん大切です。同時に人間の生活のために利用され、そのために“荒廃”



キビ畑とキビの穂。

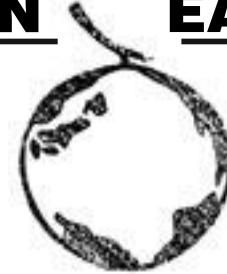
したようにみえる植生も価値を持っています。もちろん、人間が一方的に収奪してもよいのではなく、できるだけ多くの収穫物が永続的に得られるような適正な土地利用をする必要があります。植物の生産力は、利用できる水の量によって制限されます。大同のような半乾燥地域では、「適正利用」といっても容易なことではありません。さらに自然条件だけでなく人間社会が関係しますので大変複雑です。ある土地の将来を描くのはその土地に住む人々です。しかし、外国人である私も、その

実現に向けてお手伝いすることは可能でしょう。厳しい条件の場所で体得した「適正利用」の知識や技術は、日本における農業や緑化、土地利用計画にもきっと役立つでしょう。

GENとご縁ができて1994年以後3回大同を訪れました。これからはさらに回数が増えるものと思っています。平野の部分を除けば、彼の地の農業や植生についての私のとらえ方は現在も基本的には変わっていません。さすがに、蝶の乱舞は見られなくなりました。無くなつたものといえば街中に漂つてい

た山西省名物のお酢の匂いも感じなくなりましたね。

最近は、大同以外へも度々出かけますが、そこでは農地の中に使用済みの農薬の袋が無造作に捨てられているのをよく目にします。ずいぶん変わったものです。日本がかつて通つた道ということでしょうか。



## 水俣の毎木調査に参加して

会田 伸子 (GEN事務局)

霊丘自然植物園の樹木の成長を定期的に調査し、記録しようという話が持ち上がって、今回GENの前中顧問から水俣の調査地を紹介され、調査に参加することになりました。熊本県水俣市大川に位置するシイ、カシを中心とした照葉樹林で、2年に1度の割合で継続して植生調査がおこなわれています。すでに40年間の調査データが蓄積されています。このように長期的なデータが蓄積されているのはまれで、日本では最長クラスだそうです。

GEN事務局4名と川島副代表、5名のグループは11月23日のお昼前に調査地に到着。すでに現地で調査を開始していたみなさんと合流しました。今回、総勢25名で3日間調査をおこないました。

ここでは、40m×40mの調査区域が5つあります。その調査区域内の樹木1本1本に番号札をつけて個体を識別し、2年毎に樹木の幹直径や樹高が測定され



1本1本に番号札がつけられている

ています。その数、6,000本以上！

樹木の大きさに応じて、胸高（地表から1.3m）直径もしくは幹周囲、樹高30cmの直径、樹高を測定します。測るべき場所が白く塗られていますが、2年に1度のことなので薄くなつたりします。その修復や、番号札のメンテナンスも大切な仕事です。

今回の参加者25名中、過去にこの調査に参加したことがある人は5、6名で、大多数は初めて。そのほとんどが環境問題、森林学を学んでいる学生さん、大学院生です。北海道大学、宇都宮大学、大阪府立大学、広島大学、熊本県立大学、鹿児島大学など各地の大学からこの調査に参加しています。学生さんはいろいろな場所でこのような調査に参加しているらしく、みなさんとっても手際がよい。その手際のよさに、つくづく感心しました。さらに夜には、調査しながら採取した樹木の葉っぱの標本を作ったり、名前を調べたりと、毎晩2時過ぎまでがんばっていました。その熱心さには本当に頭が下がりました。

今回調査に参加させていただき、改めて40年近くにもおよぶデータの重みを感じました。こうして多くの人々の、ここ水俣の山に対する思いが受け継がれ、今日に至っています。そのデータは蓄積されるだけでなく、もちろん様々な学術論文に活用されています。長年

にわたつ  
て蓄えら  
れたデー  
タは世界  
的にも大  
変貴重だ  
といふこ  
とですが、  
自然の営  
みについ  
て解き明  
かそ  
う

とするに  
は、さら  
にもっともつと長い年月の記録が必要  
になります。この水俣での調査が今後、  
50年、100年と続いていけば、そのデータ  
の重みはさらに増していくことと思  
います。そのような貴重な活動に参加  
させていただいたことに本当に感謝し  
ています。

今後、霊丘自然植物園でもこのような毎木調査をおこないたいと考えています。今回、水俣の調査では、学生さんをはじめ、森林に関する様々な分野で活動をされている方々が集まつていました。霊丘での調査もせっかくですから、日本の方はもちろん、中国のできれば地元の若い世代に参加してもらえると、また調査の意義が高まると思  
います。大同での森林再生の記録を残すために、中国の若い世代を巻き込んで、有意義な調査ができると思います。



直径を測り、番号札を書き直す  
にもっともつと長い年月の記録が必要  
になります。この水俣での調査が今後、  
50年、100年と続いていけば、そのデータ  
の重みはさらに増していくことと思  
います。そのような貴重な活動に参加  
させていただいたことに本当に感謝し  
ています。

## 植物屋のこぼれ話 (続編) その 17

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

### ●松「マツ」の話

明けましておめでとうございます。お正月の松竹梅にちなんでマツのお話です。

マツ属 (*Pinus*) は世界中に数多く分布しているが日本にも野生が5~6種見られる。葉が2枚くっついているアカマツ・クロマツ、5枚くっついているゴヨウマツ・キタコマツ・ハイマツ・チョウセンゴヨウなどだが、最も多いのが海岸線のクロマツ、山に多いアカマツだろう。この2種は日本中に分布しているので知らない人はまずないだろうが、この2種の雑種「アイグロマツ」をご存じの方はきわめて少ないのではないだろうか。アカマツは山間部、クロマツは海岸線に生えているが、山の中のアカマツの群落の中にクロマツを植えてある場所に、まれに見られるのだ。アカマツは幹の上の方は名前の通り赤茶色だが、アイグロマツは赤なくて、クロマツほど明瞭な黒でもない。どちらかといえばクロマツに似ている。

### ●アイグロマツ

この雑種植物は1954年に岩田、草下両氏によって詳細に発表されている。アイグロマツはちょっと見て判別しがたいので、その葉を輪切りにしてルーペで見ると判別できる。マツ属植物は樹脂(マツヤニ)の通る樹脂溝があり、葉にも通っているのだが、種類によって通る位置が違うので判別できるわけだ。生の葉を安全カミソリの刃で切るとヤニが吹き出すのをルーペで見ることができる。アカマツは周辺の表皮に

溝がくっついており、クロマツは葉肉の内部に見られ、アイグロマツは両方に見られる(図)。

アイグロマツはクロマツに近いものやアカマツに近いものがあり、アカアイグロ、クロアイグロなどと呼ぶこともある。

筆者の実験で、クロマツの種子は塩気のある土で発芽できるが、アカマツの種子は塩気がいると生えない。この性質が分布地域を決定づけているのだと思う。はたしてアイグロマツは塩気に強いのか弱いのか、まだ実験していないのでわからない。

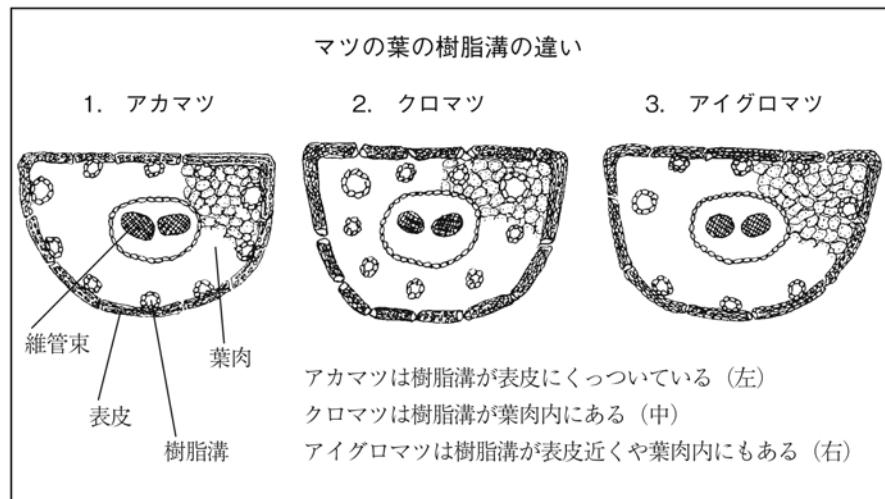
### ●枯れて落ちても二人連れ

「お前百まで、わしゃ九十九まで」、「枯れて落ちても二人連れ」とか仲の良い夫婦のたとえがあるが、マツの葉は2本と5本だけではない。ヨーロッパには1本のものがあり、米国、中国には3本のものがある。1本はいつまでも独り

者たとえになるのだろうか？ 3本のは「枯れて落ちても三角関係」だろうか？

### ●マツクイムシはいなかった

マツが枯れるのは土の中にいる線虫とそれを運ぶマツノマダラカミキリムシの連携プレーだったのだが、センチュウが木の幹に入り込むのは、マツに樹脂溝があったからだ。線虫は樹脂溝のヤニの中を遊泳できるのだが、普通の樹木にはこんなものはないからネコブセンチュウ(根瘤線虫)という線虫が柔らかい植物の根に入ることがあるだけだ。マツノザイセンチュウがマツの樹脂溝に入って、途中で樹脂溝を破って外へ出ると空気にふれたヤニが固まって水分がストップし、そこから上が枯れるのだ。マツ枯れ現象が起こる最初に枝が1本だけ枯れたりするのはそのためである。カミキリムシもザイセンチュウもマツを食うわけではない。ちょっと侵入したら枯れちゃった、というわけだ。だから私たちはマツクイムシにやられたとは言わず「マツ枯れ現象」と言っている。



## 書き損じの年賀状をお送りください

GENでは手軽にできる緑化協力として、書き損じはがきの回収をおこなっています。郵便局で切手に交換して、通信費として活用します。いろいろな方に協力いただいて、大変助かっています。

ご家庭や職場で、書き損じたり余っ

たりした年賀状がありましたら、ぜひGEN事務所までお送りください。恐れ入りますが、送料は送り主負担でお願いいたします。

なお、使用済みプリペイドカードの回収はもう終了しております。ご了解ください。



黄土高原史話〈38〉

## 「土」と「水」があつてこそ

谷 口 義 介（摂南大学教授）

むかし、考古学の現場工作者をしていた頃のこと。若い新聞記者が発掘中の遺跡に取材に来て、「記事は足（脚）で書かなければ」と。デスクに言われたことを拳拳服膺しているのだろうが、まぜっ返して、「エッ？ 手で書くんじゃないの？」

それよりだいぶ後のこと。作文の苦手な豚児に、「大江健三郎という偉い作家は、文章は消しゴムで書く、と言てるぞ」とお説教。ところが、「お父さん、鉛筆で書くんじゃないの？」因果はめぐる、と言うべきか。

ご覧のとおりの悪文ながら、私もシャーペンと消しゴム派。

白川静先生は、細字の水性ペンで厖大な著作を。書信は筆ペンだったが、それはそれは見事な字体。「ワープロのキー打ちは、手の動きとしては単純。手で文字を書くのは複雑な作業だから、アタマの働きが良くなる」と、手書きの効能を力説されていた。（カント曰く「手は外部の脳である」。つまり手の動きと脳の働きは連動するということ）。驚異的な頭脳の持ち主で世界的な漢字学の権威だけに、書字の勧めは説得力あり。

漢字といえば、後漢の許慎（30～124）。『説文解字』は、文字の成り立ちから解説し、その字義を明らかにした最古の字書。しかし許慎は、殷周の甲骨・金文の存在を知らず、後漢の儒教イデオロギーに毒（？）されて、その字源解釈には少なからぬ誤りが。その誤解・謬説を正したのが、すなわち白川文字学。漢字に関する本だけでも、中国語訳は五指に余る。

それはともかく、ここでのテーマは『説文』の方。小篆9353字のうち、「木」部に見える樹木名は、ざっと数えて140字。当時の都洛陽と前漢の都長安を中心とした黃河流域、北中国で常見する種類と考えてよい。たとえば、〈37〉で述べた「松」「柏」など。ところが、『説文』研究の大家、清代中期の段玉裁（1735～1815）によれば、140字中いまの何という木に当たるか不明なものが30字あり、と。つまり『説文』以降1700年、名（字）のみあって実物の分からぬ樹木が20%ほど出てきたわけだ。

ところで、前回も引いた『詩經植物図鑑』によると、『詩經』で歌われた植物135類のうち、木本植物は61類。前漢のときできた『爾雅』「釋木」では、

木の名として  
99種を数え  
る。つまり北  
中国で知られ  
る樹木名は、  
春秋期：61、  
前漢：99、後  
漢：140、そ

も  
木  
水  
土  
り

して清中期：110となる。資料の性質や植物に関する知識の発達も考慮する必要あり、この数字は単純に樹木の増減を意味するものではないだろう。ただ、袁清林『中国の環境保護とその歴史』によれば、環境の第一次悪化時期：秦・前漢、回復期：後漢～隋、第二次悪化時期：唐～元、深刻に悪化した時期：明清以降、と。かかる一般的傾向と上記の数字は、矛盾するものではないようだ。

生前の恩師にお聞きしておけば良かったと思うこと多々あれど、その一つが掲出の文字。下に「水」と「土」があつて、上の「木」が育ち、「もり」ができる。『説文』叙にいう六書のうち会意、つまり二つ以上の字を結合して一個の字形をつくり、それに伴う意味を表わすという漢字の構造法。たとえば、「日」と「月」で「明」るい。どなたの造字が知らないが、白川先生も感心されたのではないかろうか。

## 2008 春の黄土高原ワーキングツアーご案内

いよいよ北京オリンピックの年になりました。ホテルをはじめ諸物価は上がるし、交通は大混雑。ということで、今年夏の黄土高原ワーキングツアーはお休みします。

協力団体のツアーも春に集中して大同事務所の負担が大きくなるので、ホームステイは残念ながらあきらめざるをえません。どうかご了解ください。

春のツアーは靈丘自然植物園がメインです。樹木の観察には春が適しています。リョウトウナラやシラカンバなどが年々大きくなり、大同の緑化の可能性を示してくれる自然植物園を観察して、村での植樹にも汗を流しましょう。

●日程：3月29日（土）～4月5日（土）  
8日間

●費用：159,000円（国際航空運賃、中國国内での交通費／食費／宿泊費を含む。GEN年会費（一般=12,000円、学生=3,000円）、燃油特別付加運賃、空港使用料、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない）※中国国際航空利用

※関西空港発着 ※成田便利用希望の方は、航空運賃の差額2万円が別途必要です。※旅行社の添乗員は同行しません。

●訪問先：中国山西省大同市（北京経由）  
●定員：35名

●最少催行人数：12人  
●締切：2月20日（成田便利用の方は2月8日）  
●呼びかけ・内容に関する問合せ：緑の地球ネットワーク  
●申込先：（株）マイチケット（エアーワールド（株）代理業 tel. 06-4869-3444 fax. 06-4869-5777）  
●旅行企画・実施：エアーワールド（株）  
国土交通大臣登録旅行業第961号日本旅行業協会会員  
※参加をお考えの方は、まずGEN事務所までご連絡ください。資料と申込み書類は（株）マイチケットから郵送します。



## 自然環境市民大学 第6期・受講生募集

1年間いっしょに自然について考えていくませんか。初めての方もすでに活動されている方も観察や調査の仕方など学べます。

- 期間:08年4月から09年3月まで37回。
- 日時:水曜日の10時~15時30分(他曜日の講座もあり)
- 会場・フィールド:大阪府内や近県のフィールド
- カリキュラム:開校式・自然とのふれあい/自然のしくみの理解(生態学)/自然・生き物を知る(分類・観察)／活動の体験・実習／修了式
- 受講料:55,000円(協会会費が別途必要)
- 定員:35人(先着順)
- 締切:3月14日必着
- 申込み:氏名・住所・年齢・性別・電話番号・メールアドレスを明記の上、課題作文「自然への思いと受講の動機」(400~600字)を郵送もしくはEメール(協会ホームページの

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。  
主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報を寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。  
なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

申込みフォームが便利です)で下記  
申込先まで。

- 問合せ・申込み:(社)大阪自然環境保全協会市民大学係(〒530-0041  
大阪市北区天神橋1-9-13-202 tel.  
06-6242-8720 fax. 06-6881-8103  
e-mail : office@nature.or.jp URL  
<http://www.nature.or.jp/>)

## 六甲奨学基金のための 第11回古本市

阪神大震災の年にはじまった、アジアからの留学生・就学生のための六甲奨学基金。その募金活動の一環の古本市も11回目となりました。

- 受付期間:3月1日~31日まで(この期間以外は受け付けられません)
- 送付方法:直接持参または送料送り  
主負担で送付

### 【注意】

- ・汚れ・破れのひどいものは不可。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。

・お送りいただいた本は返せません。

### ●送り先・問合せ先

(財) 神戸学生青年センター古本市係  
〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1  
tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878  
e-mail : [info@ksyc.jp](mailto:info@ksyc.jp) URL <http://ksyc.jp/>)

### ★六甲奨学基金のための第10回古本市

●3月15日~5月15日まで毎日開催  
本の整理などのボランティアも募集しています。上記までお問い合わせください。

### 編集後記

中国で今年6月からレジ袋を有料化すると発表したそうです。五輪対策だろうとなんだろうと、実現すれば、日本は先をこされることになりますね。ちなみに、GEN事務所近くの某スーパーでは、以前からレジ袋は有料。環境への配慮というよりコスト削減が目的のようですが、その分激安ということもあり、お客様も文句もいわず、買い物袋持参です。大阪ができるんだから日本全国できないはずはない! (東川)